この間、岩子は、東京深川にある貧困者の家をたずね歩き、その苦しい生活ぶりを見てきました。そして、

「貧しい人がかわいそうだから救ってやるというだけが、貧しい人を救う道ではなく、それらの人々が、自分の力で生きて行けるように、育ててやることが大切である。」

と、身をもって体験したのです。

東京で一年間、手伝いながら勉強してきた岩子は、若松に救養会所の分所をつくろうとしましたが、県令（今の県知事）が転任してしまったのでつくることはできませんでした。

しかし、岩子は、自分だけの力でお寺（喜多方市の長福寺）を借り受け近くの身寄りのない老人やみなし子を集め、ここに移り住まわせました。そして、着物を与え、食事の世話をして、貧しい人を救う仕事に全力をそそぎました。